

誰もが抱える悩みをパパッと解決！



早稲田アカデミー
教育事業本部副部長
福田 貴一

福田貴一先生の 福が来るアドバイス

充実した「勉強の秋」にするために

夏期講習会で

「頑張ったから」「頑張ったのに」

楽しかった夏が終わると、少し寂しいような切ないような気持ちになってしまう……という経験はないでしょうか。お子様にとってもそれは同様で、夏休みが充実したものであればあるほど、それが終わってしまったとき、心にポカんと穴が開いたような気持ちになりやすいものです。なるべく早く気持ちを切り替えるためにも、夏休みをきちんと振り返り、次の目標に向けて一歩を踏み出せるようにしたいものです。

実は、9月になると、生徒たちの学習に対するモチベーションが低下してしまう傾向があります。その理由は、「夏が終わってしまった切なさ」だけではありません。夏期講習会で一生懸

命頑張った分、その疲れが出てしまうこともあるでしょう。なかには「夏に頑張ったから、ちょっと休んでもいいかな」という気持ちが生まれてしまう生徒もいます。

また、夏休みの終わりごろには、各塾で大きなテストが行われます。そのテストで思うような結果が出なかった場合には、「あんなに頑張ったのに……」と落ち込んでしまうこともあるでしょう。「夏の成果を試すテスト」となると、お子様だけでなく保護者の皆様も結果が気になるところだと思います。頑張るお子様を間近で見ていると、つい「頑張ったから、きっと成績も上がってくるだろう」と期待される方も多いと思います。しかし、夏の学習の成果が「夏の終わりのテスト」で数字として表れるとは限りません。テストの成績は当日のテスト問題によって変わるものですし、偏差値は相対評価（他者と

「夏休み」は小学生にとって一年で最も楽しい期間の一つでしょう。夏の日差しや明るさは子どもたちの気持ちを高揚させるものですし、普段とは違う楽しいイベントを経験したお子様も多くいらっしゃるはずです。そんな季節が終わって、いよいよ二学期のスタート。お子様方のご様子はいかがでしょうか。今回は、充実した二学期を過ごすためのポイントについて書かせていただきます。

の比較によってつけられる評価）ですから、同じように夏に頑張った生徒同士が受験する場合、大きな変化は生まれにくいものなのです。むしろ、偏差値が大きく下がらなかつたなら、学力は着実に伸びているとお考えいただいてもよいでしょう。

結果が数字に表れないと不安になったり、努力をしていたお子様がかわいそうに思えたりするかもしれません。しかし、頑張った成果は必ずお子様のなかに蓄積されています。お子様自身が焦ってしまうことのないよう、声を掛けていただければと思います。

充実した二学期にするために

私は、毎年9月の初回授業で「二学期からの学習について」という話をしています。そのと

ようになるでしょう。単に「宿題量」が増えるのではなく、考える時間が必要な問題が増えていくはずです。充実した秋を過ごすためには、ダラダラと机の前に座っているのではなく、集中して宿題を進めるような学習に切り替えること、言い換えれば「家庭での学習密度を高めること」が必要になってくるのです。

二学期は「学習効率」を意識する

小6受験生は、夏期講習会でこれまで学習してきた単元の総まとめを行いました。二学期は、いよいよ志望校の入試問題で「合格点」を取るための学習に取り組んでいきます。入試過去問演習も始まり、制限時間内で合格点を取るトレーニングが大切な時期となるわけです。

この時期に、私が小6生に伝えている学習のポイントは、「学習効率を高める」という一言に尽きます。端的に言ってしまうと、「同じ時間で学習できる『量』を増やす」ということです。受験までの日数、つまり学習できる時間数が同じでも、その時間のなかで取り組める「学習量」に差をつけることができれば、合格に近付けるはずですよ。

とはいえ、小6の秋になってから「時間単位の学習効率を高める」ことを意識し始めても、なかなかうまくいきかないものです。もちろん、小6の夏休みで「受験生としての意識」を高めておくことで、秋からの学習に対する取り組み方を変えることはできますが、より高いレベルで「効率のよい学習」を行うためには、小5末



きによく取り上げるのが、「○○の秋」という話です。ホワイトボードに「○○の秋」と書き、○に何が入るのかを聞いてみます。多くの場合、「食欲」「読書」「スポーツ」「芸術」などの答えが続いた後で、「勉強」という言葉が出てきます。それらの答えを全て聞いた後で、私は「勉強」はもちろんですけど、「全て」に一生懸命に取り組む秋にしてほしい」と伝えていきます。気候的にも過ごしやすい時期なので、いろいろなことに全力で取り組み、充実した二学期にしてほしい」というような内容です。

での間に「集中して学習に取り組む経験」を積んでおくことが大切になります。

小5までの非受験学年であれば、与えられる課題は受験生と比べるとそれほど多くはありません。しかし、終わるまでにかかりの時間がかかっているお子様も多いのではないのでしょうか。なかには、机の前にポロっと座っているだけで実際には手も頭も動いていない……といったケースもあるかもしれません。非受験学年の保護者の皆様には、まずお子様の様子をしっかりと見ていただき、「座っているだけ」の長時間学習になっていないかチェックしていただきたいと思えます。そして、「学習時間の長さ」よりも「学習効率」を意識して、なるべく「効率の良い」学習スタイルに切り替えていただければと思います。

福田 貴一
四つ葉cafe 公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副部長
福田 貴一

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください

スマートフォン対応